

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS N76 2009年 3月21日発行



チェルノブイリ23周年救援キャンペーン 広河隆一 チェルノブイリ報告会

4月20日(月) 18時半開場 19時開演 文京シビックホール小ホール
[チケット]1000円(前売り) 1300円(当日) 全席自由



廻ることのない プリピャチの観覧車
紅い頬の子どもたちの はしゃぎ声を
空に届けることはない
プリピャチの観覧車

空は青いままで
ホルンやジャガイモのような雲も変わらず動いていて
でもプリピャチには
一人の子どももいないんだ
観覧車を動かす大人だっていないんだ

石川逸子「プリピャチの観覧車」より

スライド講演

広河隆一

詩の朗読

石川逸子

ピアノ

須山真怜

チェルノブイリ写真展 4/13～4/15

文京シビック展示室 10時半～20時半

入場料無料

同時開催 ● ウクライナ刺繍の展示・実演

● 『チェルノブイリの祈り』語り

増田一子

稲葉純子

チェルノブイリ原発事故23周年 各地の集い

4月19日(日) 13:30~

津センターパレスB1 津まん中交流館

スライド講演 最新チェルノブイリ報告/広河隆一

賛助出演/ソプラノ独唱 中世古 愛

〔主催〕三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金

T&F 0598-42-8875

広河隆一チェルノブイリ写真展 4/17~4/19 まん
中交流館 研修室

4月20日(月) 19:00~

文京シビックホール 小ホール

スライド講演 最新チェルノブイリ報告/広河隆一

詩の朗読/石川逸子 ピアノ/須山真怜

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金

T&F 03-5228-2680

広河隆一チェルノブイリ写真展4/13~4/15
文京シビックホール1F 展示室 同会場にて/ウ
クライナ刺繍の展示・実演 増田一子 語り『チ
ェルノブイリの祈り』稲葉純子

4月29日(休) 13:30~

名古屋国際センター 別棟ホール

市民フェスタ つながるいのち 子どもバレー/松

本道子バレー団 朗読/ちいちゃん田んぼ

チェルノブイリ講演/内藤新吾(牧師) 佐々木真
理(チェルノブイリ子ども基金)

ライブ/内田ボブ、阿部ひろ江、館野公一

〔主催〕チェルノブイリ23周年救援企画in 名古
屋実行委員会

T&F 059-229-3078(広河隆一写真展事務局内)

同時開催【展示】11:00~17:00 広河隆一チ
ェルノブイリ写真展、チェルノブイリの子どもの
絵画展、「チェルノブイリ救援・中部」の活動パ
ネル、「チェルノブイリ子ども基金」の活動」パ
ネル

以上は「子ども基金」および姉妹団体が関わっているイ
ベントです。

以下は子ども基金と協力関係にある団体のイベントです。

4月11日(土) 13:00~

大阪市 北区民センター

‘09 ノーモアチェルノブイリ 関西のつどい

講演「グリーンエネルギーと私たち」/藤井石根
さん(明治大学名誉教授)

新作ビデオ「山のかなた」初公開 アルパ演奏/丸
田恵都子

プレ企画 11:00~12:00 ミニ学習会 小林圭二
さん(元京都大学原子炉実験所講師)

〔主催〕'09 ノーモアチェルノブイリ 関西のつ
どい実行委員会

T&F 072-843-1904(自然環境センター内)

4月26日(日) 14:00~

ドーンセンター(5階・視聴覚スタジオ)

報告会&トーク ビデオ上映、詩の朗読ほか

報告/1.チェルノブイリ事故処理作業従事者の新
たなデータの紹介、2.日本でも、繰り返さない
で!チェルノブイリ

トーク:長崎被爆者・山科和子さんに聞く ~

「先輩ヒバクシャ」からチェルノブイリ・ヒバ
クシャへの想い~

〔主催〕チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

T&F 0797-74-6091

(注)入場料などの詳しい情報は、各地
主催者にお問い合わせください。



広河隆一 最新チェルノブイリ報告会 in 東京



みなさまのお手元にこのニュースが届くころ、広河さんはチェルノブイリ被災地取材中です。2年半振りに訪れたチェルノブイリ……。ど

のような写真と報告がなされるのでしょうか？

東京の講演会に先立って、三重県・津市でも講演会が開かれます（2 ページ参照）。どうぞお近くの方は、会場まで足をお運びください。



チェルノブイリ23周年に 石川 逸子

放射能の怖しさ。23年経って、事故がちっとも過去とならないところに、問題の深刻さがあります。そして、犠牲になるのは、戦争の場合もそうですが、いつ

も先ず、子どもたちや女性たち。成長期にあってヨウ素を吸収しやすかった子どもたちの甲状腺に、放射性ヨウ素が集まり、大きな悪さを働いた。沢山の子どもたちが、小児甲状腺ガンになって、手術を受け、一生薬を飲みつづけなければならなくなったり、発見が遅れたものは死んでいったのです。

92年をピークにやっと小児甲状腺ガンは減少しはじめたものの、なんと思春期の甲状腺ガンはふえはじめているそうです。結婚、出産で母体の甲状腺は大

東京では、詩人の石川逸子さんとピアニストの須山真怜さんが賛助出演されます。石川さんは自作の詩を朗読。須山さんはチェルノブイリ鎮魂曲とほかのピアノ曲を弾きます。

チェルノブイリ鎮魂曲は作曲家の山田泉さん*が事故10周年(1996年)の4月イベントのときに、チェルノブイリ被害者のためにと作曲して下さったものです。

*山田泉（やまだいずみ、1952年 - 1999年）戦後世代を代表する作曲家。桐朋学園短期大学部助教授、東京芸術大学作曲家非常勤講師として、多くの作曲家を世に輩出した。

きな負担を受ける、今、ちょうどその時期を迎えている女性たちの不安を思います。「自分の健康はもう元には戻らないから、娘は健康に育てほしい」と願う、S・ワレンチーナは被曝時3歳。「医師から出産をあきらめるように言われたが、生んだ。子どもには多くの症状が現れたけれど、これからすべては良くなると信じています」と愛児を抱いて語るD・ナターシャも被曝時3歳。目には見えない放射能。やむなく被曝地に住むしか手立てがない人たちは、サマシオール（わがままな人）と呼ばれているとか。原発大国の日本にあって、チェルノブイリ被曝者の苦痛はよそ事とは思えません。彼らは、人間にとって最も大事なものは何か、教えてくれてい

そこで何が起きたのか、私は知らない 須山 真怜

チェルノブイリに生きた人々は深く傷つき、何が起きたのか知らずにリクヴィダートルたちは被曝した。彼らの話を私は知らない。

時間の正しさというのは、私達は記憶に対して覚えていることしか出来ないという無能のうちに存している。ならば、追慕することは救いか。

今、チェルノブイリの土地に人々が戻ってきているという。

子どもは大人になった。

淀みのない時間だけがそこにある。

ピアノを弾きます。



慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」(ベラルーシ ゴメリ市) 新年のお祝い会の報告

前号でお知らせしましたように、子どもたちの新年のお祝い会のために 1000 ドルを支援しました。団体からは写真とともに報告が送られてきました。

代表 ワレンチーナ「皆様のご支援のお金から、プレゼント用のお菓子・果物・ジュースと、コンサートのチケットを買いました。どの子どもも笑顔でいっぱいでした。ほんとうにありがとうございました」(この様子は、子ども基金のブログにもカラー写真入りで紹介しています。)



お祝いの会はゴメリ市とモーズィリ市の 2カ所で行われ、375 人の子どもがプレゼントを受け取りました。モーズィリには、レリチツァ、カリンコヴィチ、ペトリコフ、ナロヴリヤ、ジトコーヴィチ、エリスクの町や村からも子どもがやってきました。またコンサートには 225 人の子どもを招待されました。

これらに参加したのは、町まで来ることのできる健康状態の子どもたちです。体調が悪くて来られない子どもの親は、プレゼントを事務所に受け取りに来ました。

今のところ悪性ではありませんが、黒色腫になる恐れがあるため、検査を受けているそうです。



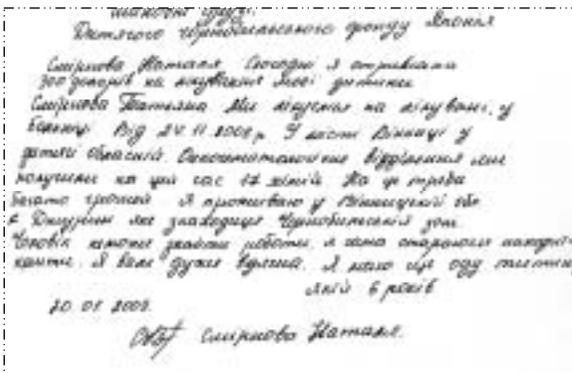
ゴメリ市で母親と暮らす 1 歳のナースチャ。母親は甲状腺ガンの手術を受けました。ナースチャの背中には先天性巨大色素性母斑があります。

緊急支援

事務局には協力関係にある現地団体から日々いろいろな情報が寄せられてきます。緊急支援要請が寄せられたときには、支援の必要性をその都度判断をしています。これまでに35人の子どもが1年間(月50ドル相当)の支援を受け、1年後も健康状態・家庭の経済状態が改善されない場合には、里親制度で救済しています。今回は3人の子どもたちの緊急支援を決定しました。

S・ターニャ 12歳

ウクライナ ヴィンニツァ州シェルゴロドスキー地区ドゥルジヌイ村
急性白血病のため入院中。



(母親からの手紙)

チェルノブイリ子ども基金の皆さまへ
私はターニャの母親で、ナタリアと申します。娘のための治療代300ドルを受け取りました。娘は、ヴィンニツァ市の州立小児ガン科で2008年11月24日から現在まで17クルの化学治療を受けています。これには多額の費用がかかります。私たちはチェルノブイリの被災地区に位置するヴィンニツァに住んでいます。うちにはもう一人6歳の子どもがいます。夫は仕事を見つけることが出来ず、私がなんとかお金を工面しています。ご援助は大変感謝しています。 2009年1月20日

R・クリスチーナ 11歳 ベラルーシ ジロービン市



甲状腺腫。二人の姉は骨のガンのため死亡。母親は死亡、父親は服役中。視力障害者である叔父の家で暮らしている。母親の死後、心に大きな傷を負ったクリスチーナは、

優しい叔父の下で暮らすようになり少しずつ明るさを取り戻している。

2008年8月「希望21」で行われた特別保養に参加。日本人ボランティアによる「ゆび編み」教室でのひとコマ。保養中に行われたどの教室にも彼女は積極的に参加した。子どもたちが大好きな“ディスコ”では友達と一緒に汗だくになって踊っていた。ここでの保養を通してまた少し元気を取り戻したようだ。

R・スタニスラフ 9歳

ベラルーシ ゴメリ地区コレニョフカ村

血小板減少性紫斑病。母と3歳の妹、祖母と暮らしている。



姉は9歳で亡くなった。

2008年8月「希望21」で行われた特別保養に参加。「今日のお昼はカツだった。あんな大きくておいしいカツは食べた

ことがない！」と保養所からおばあさんに電話をかけたそう。貧しい村で暮らす母子家庭なので保養所の食事は夢のようだったのだろう、と慈善団体のスタッフは話した。

(報告 佐々木真理)

2009年チェルノブイリ救援募金キャンペーン

チェルノブイリ被害児童に放射線汚染のない土地での保養を！

子ども基金は 1996 年より毎年、甲状腺ガンの手術を受けた子どもたちをウクライナ・ベラルーシのサナトリウムでの保養に招待してきました。手術や治療のストレスで精神的ショックを受けた子どもたちが、同じ悩みを抱える仲間と出会い、スポーツや文化に触れながら汚染されていない場所でのびのびと過ごすことにより、見違えるほど元気になっていきます。2007 年からは、脳腫瘍・目のガン・白血病などの子どもたちも保養に参加しています。



今年の保養計画

ウクライナ ザカルパチヤ州
ラホフスキー地区
「サナトリウム“ゴルナヤ・チサ”」
30ドル(1日あたりの滞在費)×26人×15日間
ベラルーシ ミンスク州ビレイカ地区
「児童健康回復センター“希望21”」
19ドル(1日あたりの滞在費)×31人×24日間
(この他に交通費、保険代などがかります)
今年も子どもたちの保養を実施できるよう、みなさまのあたたかいご支援をお願いいたします。

同封のチラシをご覧ください。ご連絡いただければさらにチラシをお送りしますので、いろいろな場所で宣伝していただければ幸いです。

ベラルーシ 子ども健康回復センター 「希望21」からの報告

<2008年保養の報告>

08年の年間保養者数は4736名でした(07年の保養者数より400名増加)。施設維持に係わる資金調達のために一般旅行者を受け入れるなど、本来の業務以外にも力をいれてきましたが、センターの本来の目的であるチェルノブイリ事故被災者児童への保養サービスをこれまで通り第一に考え

て活動しています。08年には、温泉療法施設・歩行強化施設・日光浴療法棟が完成し、宿泊棟第1号棟と子ども遊戯室の改修工事が終了しました。

08年、ベラルーシでは著しい物価高騰と公共料金の値上がりが見られました(特に、食料品と燃料。電力費は08年9月1日より平均16.1%、車両燃料は25%上昇。乳製品、肉類は平均32-35%上昇)。08年の物価上昇率は年間6~8%と予想されていましたが、実際には13.3%に達しました。これらの理由により、子ども一人一泊あたりの宿泊費は前年度より2%増の17.14ドル(09年の宿泊費はさらに19ドルに値上がり)となりました。2008年にチェルノブイリ子ども基金からいただいた寄付金が全体経費に占める割合は、6.7%でした。

全職員がチェルノブイリ事故被災児童の健康維持及び治療活動に力を注いだこと、一般の旅行者を受け入れたこと、また貴基金を含む他の国際慈善団体からの寄付金のおかげで、08年度も赤字決済を避けることが出来ました。

チェルノブイリ子ども基金よりいただいた寄付金のすべては計画通り完全に目的にかなった使用がなされました。2009年1月1日現在使い残された経費はありません。

「希望21」所長 V・マクシンスキ

<2008年医療検査結果の報告>

チェルノブイリ子ども基金から贈られた医療機器による検査結果を報告します。

心電計検査:78人のうち14人に異常が発見された
肺機能測定器検査:776人のうち17人に異常が発見された

これらの結果は保養中の医療サービス計画を立てる上で考慮され、また保養所から帰った後の治療にも活かせるよう、各自に検査結果を渡しました。

心電計と肺機能測定器は正常に稼動し、必要な手入れも行っています。その他の全ての医療活動(11ページの印につづく)

甲状腺と他の腫瘍病の子どものための「特別保養」報告

ベラルーシ「希望21」

2008年夏の特別保養に参加されたボランティアの方の報告です（前号8頁からの続きです）

今年の保養参加者の年齢は8歳からでした。2000年に生まれた子どもです。チェルノブイリ事故から14年たって生まれた子。それでも影響は続いています。引率者として来ていた女性が、ある朝施設内の林でキノコをとっていました。自分達のところは汚染されているのでここにあるものを持って帰ると教えてくれました。保養が終われば、また汚染地域に戻っていく。私は子どもたちをみていて、この子たちはどこが具合が悪いのかなど錯覚するくらいでした。とても元気にみえるのです。それは、施設の中で子どもたちが回復している証拠です。

オリエンテーリングをやっているところを見学しました。ドイツからプロの人が来て職員研修をしたそうです。私からみると、現職（元小学校教師）のときに体験したオリエンテーリングよりも、ここの方が数段レベルの高いものでした。みんなで協力しあうもの、得意な子にやってもらうもの、頭をかなり使うのです。何をどうすればいいか考えないといけないうのは、子どもの知的好奇心をかきたてます。

今回の保養で驚いたことが、もう一つあります。それは、8月6日のことです。保養所はこの日を広島に原爆が投下された日として、平和記念行事が催されました。ノーモア広島、ノーモア長崎ということで、核兵器廃絶は世界の願いとなっています。私になぜ驚いたかということ、チェルノブイリ原発事故で病気になった子どもたちが、広島、長崎のことを考えているということです。8月6日、9日は、日本の子どもも平和を願う日になっている。それでは、4月26日はどうでしょうか。大人でさえもチェルノブイリの原発事故が起きた日と覚えていて、放射能のおそろしさを感じる日になっているのでしょうか。

この日、ホールでイベントが行われた後、グループごとに分かれて施設の庭に平和を願う絵をチ

ョークで描きました。下絵をもとにかなり大きな絵になりました。私が子どもたちの書いている絵をメモしていたら、下絵をくれるというのでら

ってきました。地球のまわりに動物や人間がいるもの、虹に、“平和・愛・幸福”と日本語とロシア語で書かれたものなどさまざまでした。どの絵にも子どもたちの思いが込められていました。

夏の保養にここに来るだけでも、子どもたちにとって大切な気がします。そこにいるだけでも意味のある時間がもてます。教育担当のペーラさんから保養所での感想を求められたので、私は二つのことを答えました。一つは、手芸や木工などの教室が、子どもたちの夢や希望をもてるようになっている。もう一つは、充実していたので、時間が過ぎるのが速かったこと。

今、世界的経済危機の中で、寄付によって活動を支えてきていたNPO法人が、企業の寄付が大幅に減って活動が危ういというのです。その活動によって支えられてきた人に、支援できない状況が生まれてきているとテレビで放送していました。子ども基金も市民の寄付により支えられていることを思うと、これからのことが気になりました。支えのほしい子どもたちはいっぱいいます。わずかの間元気を取り戻し、また汚染地に戻ったり、必要な治療を経済的理由などで受けられない子もいたりします。自分でできることはささやかであっても、続けていくことの大切さを実感しました。続ける大切さはわかっている、条件が整ってなければできません。少しでも役立つことは何か、何ができるだろうかと、これからも考えていきたいと思えます。

〔報告 富永安子〕



黒部ドクターのお話



はじめまして

私は慶大医学部を出て小児科医になり、今鴻巣市に吹上共立診療所を内科医と共同で開業し、心療内科にも関わっています。

私は、学生時代から原水爆反対運動をしていましたので、元々原発反対でしたし、アメリカのスリーマイル島原発事故、イギリスの原発漏洩事故などに関心を持ち、そこから医療被曝低減を目指していました。そのころ消費者レポートに胸部X線間接撮影の廃止を記事にもらい、日教組を中心に小中学校のX線検診廃止運動が広がっていきました。低線量被曝の話のできる少数の臨床医の一人として、学校でのX線撮影の廃止を呼びかける講演を各地で行いました。そのとき、向井さんに出会い、チェルノブイリへ送る薬の相談を受け、その後会計監査を頼まれたのです。『生きていたい』という現地の子の絵と文の本にも一文を書きました。

子ども基金の仕事では、2回現地へ行きました。1回目はウクライナ・キエフの診療所へ医療機器支援（外務省から半額助成）を行ったことへの確認が一番の目的でした。そのほかウクライナ、ベラルーシの救援団体との会談、キエフの2病院、ベラルーシの2病院などを訪問して、支援希望の調査を行いました。

2回目は、ベラルーシの保養所「希望21」内の診療所への医療機器援助で、外務省の助成を受けていたため、稼働確認の調査に行きました。

今、私がやっている仕事は、生活のための小児科医と、子ども基金の医療顧問・監事（会計監査）と、医療過誤事件被害者の訴訟支援（医療事故調査会）、効かないワクチン反対運動（全国ワクチントーク）などです。やりたいのは医療被曝低減運動、薬の効果の検証運動（解熱剤追放、漢方薬は多くは効かないし害もある、効かない薬や害のある薬の追放）などですが、昨年病気をしましたので、仕事量を減らすようにしており、監事役も降任させてもらいました。

私は、世界各地のどこでも、その国の医療を支援する立場で、広河さんの考えと一致しています。支援団体の中には、日本の医療を現地に持ち込む医師がいますが、世界にはいろいろな医療や考えがあることを知らず、自分たちのしている医療が一番と思っている医師もいます。現地の医療を支えることが大切と考えます。日本の薬の価格は世界一で、その原因は産官学の癒着からで、日本で買うより同じ薬が輸送費を含めてもドイツなどで買う方が安いのです。ただ、社会主義が崩壊しているので、お金の支援は、ピンハネされたり、別のものに使われたりする恐れがありますから、信頼できる人や団体にしか送れません。

私は、昔インターン廃止運動から医師国家試験ボイコットをした世代で、当時はどんな医療が良いか、どんな医師になるかを議論しました。しかし、東大闘争で敗北し、医学部内からの改革に挫折しました。それから、森永砒素ミルク被害者支援を始め、未熟児網膜症患者や医療過誤事件被害者の訴訟支援と医療労働運動などを続けて来ました。

またインフルエンザワクチン反対運動、日本脳炎ワクチン、BCGワクチン反対を続けてきました。その結果、厚労省は、インフルエンザワクチンは高齢者の死亡を減らす効果だけを認め、子どもへの有効性を認めず、BCGは小中学校では廃止、乳児初期だけに限定。日本脳炎は副作用が罹患者を上回ったため中断。今年は復活を狙っています。

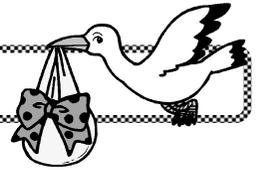
私のしてきたこと、今考えていることはこんなところですが、次号からは個別のお話をしたいと思います。

吹上共立診療所 小児科
黒部 信一

<編集部注> 黒部ドクター持論の「病原環境論」を軸に毎回具体的なお話をさせていただく予定です。今後の連載をご期待ください。



若い家族 & 奨学生 支援



若い家族支援

子ども基金では2005年から、チェルノブイリ被害者の「若い家族支援」を開始しました。その頃はちょうど、幼少時に甲状腺の手術を受けた世代の結婚・出産が始まっていました。甲状腺の手術を受けた患者には生涯ホルモン剤と定期検査が必要となります。18歳で国からの障害者認定が取り消されたり、他にも障害者へのさまざまな補償が削減されたりするなど、彼らを取り巻く環境は厳しくなっています。自分の子どもの健康に何らかの問題があったり、母子家庭などで厳しい経済状況にある家族に、2年間月50ドル相当の支援を行いました。ほとんどの家族はこの支援金を、子どもの薬代、食べ物、衣類などに役立てたようでした。

これまでに33家族がこの支援を受けてきました。一般募金の中から行ってきたこの支援も、ここ数年の募金の減少により、今後は新たな家族の支援を続けることが難しくなってきました。2009年2月で全員の支援期間が満期となりましたので、「若い家族支援」をここで一度終了することにしました。

しかし、この支援を受けてきた家族のうち、3家族の子どもの症状は重いいため、今後も治療費などがかかります。そこで、これらの家族は里親からの支援を受けられるようしました（以下をご覧ください）。

また、2008年6月には、初めてこのような家族のための保養を「希望21」で開催しました（「基金ニュース73号」にて報告）。今年5月には第2回目の保養を計画しています。また、甲状腺患者に必要な医薬品購入費の支援は続けていますので、慈善団体を通じて受け取れるようになっていきます。個別の家族支援は終了しますが、保養や薬などの支援はできる限り続ける予定です。

2009年1月より里親支援を受けることに決まった母子

ベラルーシ ミンスク市

母親（25歳）：14歳で甲状腺ガンの手術を受けた
娘（5歳）：腎臓の病气

ベラルーシ ルニネツ市

母親：10歳のとき甲状腺ガンの手術を受けた
息子（4歳）：水頭症

ベラルーシ ミンスク市

母親（26歳）：10歳のとき甲状腺ガンの手術を受けた
娘（2歳）：小児脳性麻痺

奨学生支援

2001年から開始した「奨学生制度」は、勉学に意欲を持ちながら、経済的理由から大学等で勉強を続けることが困難な甲状腺手術後の学生を支援しています。これまでに72人の学生がこの支援を受けて卒業し、現在23人がこの支援を受けています。2008年9月から新たに支援が決まった学生を紹介しします。

M・アントン 1984年生まれ

ベラルーシ ゴメリ州 レチツァ出身

ベラルーシ国立芸術文化大学、ベラルーシ伝統文化・現代芸術学部1年生。ミンスク市の寮で暮らしている。1998年、甲状腺ガンの手術を受けた。その後、放射性ヨード治療6クール、年に一度定期検査を受けている。Lチロキシン（ホルモン剤）、カルシウム剤、AT-10を服用。すべての薬剤はゴメリの慈善団体で受け取っている。チェルノブイリ障害者に認定されており、障害者年金は月95ドル。

両親からの援助なくミンスクで暮らしているため、生活が大変苦しい。母は無職。畑の作物を路上で売るなどして生活の足しにしている。父は解雇された後、酒を飲み働かなくなった。祖母は年金生活者。3人の兄はロシアで働いて両親に仕送りをしている。

アントンは子どものころから何度も「希望21」での特別保養に参加した。保養中に行われるさまざまな催し物で、自作の曲をギターで弾き語りしたり、コミカルな役を演じて笑わせたり、創作ダンスを披露するなど、多才ぶりを発揮していた。3度目の挑戦で念願の芸術大学に入学することができた。

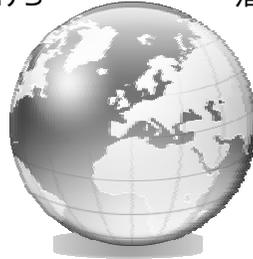


現地の社会情勢

昨年末から連日、国内外の経済情勢の悪化について、さまざまなニュースが伝えられています。

残念ながら、日本のマスコミでは、旧ソ連地域の社会・経済状況についてはほとんど取り上げられていませんが、チェルノブイリ被災各国の状況も急激に悪化しています。

とりわけ、経済全体に占める鉄鋼など重工業の割合が大きく、欧米諸国からの投資に対する依存度が高いウクライナの経済状況が深刻です。



先頃ウクライナ国家統計委員会が発表したデータによると、今年1月期の工業生産は、前年同月比34%減で、特に金属・機械関連では軒並み50%を超えるマイナスを記録しています。また、1月の月間GDP（国内総生産）は、非公式の集計で前年同月比-20%程度と見られています。政府の公式予測では今年のGDP成長率は+0.4%ですが、専門家の多くは良くて-5%とみています。ちなみに10年前の経済危機の後、昨年までの年平均成長率は約7.5%でしたので、極めて大きな落ち込みです。

当然のことながら、雇用情勢も急激に悪化しており、政府の公式発表では2009年1月末の失業率は3.2%で、2月の段階で求人1件あたりの求職者数は約11人になっています。ただ、全正規労働者の1割から2割が、休職扱いまたは時間短縮扱いになっていると言われ、こうした労働者の解雇が本格化する春には、100万人規模の失業者が新たに生まれることも懸念されています。

このため、政府の楽観的な予測でも、失業率は年内に9%に達する見通しです。（就職の希望があっても、職業安定所で具体的に職探しをしていない人は統計に含まれませんので、潜在的な失業率は、実際の数値より高くなります。）ちなみに、ウクライナの人口は昨年1年間で約23万人減少し、4614万人となりました。（ソ連崩壊の91年には、5206万人でした。）

また、ウクライナでは経済情勢の悪化と平行して、大統領と首相をはじめ、国内政治勢力の対立の激化

や、それと関連したロシアとの関係の悪化などにより、政治状況が混迷を深めており、資金の流失も続いていることから、国の財政破綻の可能性が高まっていると言われます。その結果、通貨グリブナが暴落し、一般市民の収入は大幅に減っているにもかかわらず、輸入品を中心に物価が急騰する深刻な事態に陥っています。

政府の発表によると、今年1月のウクライナ国内の消費者物価は2.9%上昇しています。食品類は3.1%の上昇、特に輸入品が多い医薬品類は、17.7%の高騰を記録しました。（昨年1年間のウクライナ国内のインフレ率は25.2%でした。）また、ウクライナではこれまで、公立医療機関で基本的な診察などを受ける場合は、公式的には無料とされてきましたが、この春から有料化されるということです。生きていくためにさまざまな医療サービスや医薬品を必要とする、チェルノブイリ被災者たちの生活が、さらに困難なものになるであろうことは、想像に難くありません。

ただ、こうした困難な状況にもかかわらず、今のところ、ソ連崩壊前後に見られたような、治安の急激な悪化や社会全体の不安定化、お金を出しても必要な物資を調達できない極度の物不足といった現象は生じておらず、通常の市民生活が何とか続けられているのが救いですが、今後の状況を注視していく必要があります。（平野）

（編集部注）6ページ「希望21の報告」と12ページ「ミンスク便り」を合わせてご覧いただくと現地の社会情勢が、より詳しくわかるかと思えます。

（6ページよりつづく）

もこれまで通り行っています。私たちはチェルノブイリ事故被災児童が健康回復を果たせるよう、質の高い保養地療養を提供しています。

「希望21」の職員はみなさまに敬意を表し、センターへのご支援に感謝します。

「希望21」医療部門長 E・ネステロヴィチ



ミンスク便り



2009年、通貨ベラルーシ・ルーブルの切り下げとそれに続く物価の高騰で幕を開け、一般市民の生活は目に見えて厳しくなり、先行きの不透明感が広がりました。

前回も少し触れましたが、世界的な経済危機の影響はここベラルーシでも免れられず、日々の会話や報道でも、危機という言葉を見聞きしない日はありません。特に製造業では、内外の需要低下から在庫が積み上がり、生産調整を行わざるを得なくなっています。その結果、当然ながら、労働力の調整も必至となっており、実際に解雇されたという話や、解雇を危惧する声も聞かれます。しかし公式の失業率は、2008年には1%を切る水準まで下がっており、年明け以降も目に見える増加には至っていません。これはどうやら、解雇に至る事態は今のところまだ稀で、労働時間の短縮によって人件費を削減しているためようです。実際、多くの工場で、週休2日だったところを3日ないし4日にしたり、強制的に無給休暇をとらせたりして、労働時間に応じて賃金を削減する措置がとられています。日本では経済危機における雇用調整のキーワードとして、「ワークシェアリング」なる言葉が頻りに聞かれますが、ベラルーシ版ワークシェアリングは「労働時間の損失」というのだそうです。国内でこうした措置の対象となった被雇用者は15万人近くおり、彼らは「隠れた失業者」となっているのです。

通貨については、国内の決済手段はベラルーシ・ルーブルのみであるにも関わらず、ドルやユーロなどの外貨が実質的な基準通貨となっており、実際には非合法ながら、様々な場面で支払い手段としてまかり通っている現実があります。ドルやユーロの現金が大量に流通しているため、町の至る所には両替所があり、いつでもルーブルに換金して買い物等に使うことができます。このため、外国旅行に行く訳ではな

くても、為替相場は日々の生活において重要なのです。ここ何年か、ベラルーシ・ルーブルの対ドルレートは安定しており、若干強くなった時期さえあったのですが、今回の経済危機で一気に3割もルーブル安になりました。隣のウクライナのように通貨の価値が半減した国もあり、それに比べればまだとも言えますが、便乗値上げもあるようで、1月の物価上昇率は前月比で4.1%と、欧州各国や旧ソ連諸国の中でもベラルーシが最も高い水準でした。

こうした状況にあって、人々はどうにかして出費を抑え、財産を守ろうと必死です。もともと家庭菜園で自家用の野菜を作ることが都市の住民であっても珍しくない国柄。この夏は、それまで面倒でやらなかった人も畑仕事を始めるのではないのでしょうか。新聞には、節約上手な主婦の話として、年に三度田舎に出かけて豚を一頭買って来て、親戚と三軒で分けて肉の消費を賄っているのだという話が紹介されていました。今まで使用量に関係なく住民一人当たりで定額となっていた水道やガス料金も、メーターを設置して使用量に応じた料金を払う方式に切り替えられつつあります。この5月からはメーターを設置していないと水道料が割高になるということで、メーター設置が一気に進む見通しです。やはり人間、省エネを心がける動機には、自分のふところが痛むというのが一番なのです。

この冬は当初の予報とは反対に、久しぶりの冬らしい寒さを楽しむことができましたが、3月に入り、さすがに雪にも飽きて春を待つばかりです。状況は依然として先の見えないトンネルの中なのですが、春の訪れはやはり、明るい気分をもたらすものです。冬の間は億劫だった家計の見直しにもとりかからねばと思う今日このごろです。

(花田朋子 ミンスク在住)

CD・ビデオ・絵葉書・書籍販売のご案内

＊ 収益は子どもたちの支援に ＊

子ども基金のホームページの最新情報欄でも、写真入で紹介しています。前号でご紹介したところ、多くの方にご注文をいただきました。ベラルーシ製のクロスは完売いたしました。ありがとうございます。

ナターシャ・グジーCD

1. 「チェルノブイリ消えた故郷・生命の輝き」 2000 円
1999 年チェルノブイリ救援コンサート記念アルバム 全 11 曲
(制作・発売／チェルノブイリ子ども基金)
2. 「チェルノブイリ消えた故郷・生命の輝き No.2」2000 円
チェルノブイリ 15 周年記念アルバム 全 16 曲
(制作・発売／チェルノブイリ子ども基金)
3. 「セルツェ」 2500 円 井上鑑プロデュース 全 14 曲
(制作・発売／(株)音楽センター)
4. 「メリー・クリスマス」 1500 円 全 9 曲
(制作・発売／オフィスジルカ)
5. 「こころに咲く花」 2500 円 全 15 曲
(制作・発売／(株)音楽センター)

ビデオ

「高速増殖炉もんじゅ 明かされた真実」 3200 円
詩の朗読／吉永小百合 ナレーション／坂本龍一 歌／ナターシャ・グジー 写真・映像／広河隆一 協力／もんじゅ訴訟原告団・弁護団、チェルノブイリ子ども基金、チェルノブイリ支援運動・九州 監督／能勢太郎 企画・制作／ストップ・ザ・もんじゅ事務局

絵葉書

事務局の住所変更に伴い旧住所欄を消しているため大幅に値下げします。

1. 「子どもの絵」 1 セット(10 枚入り) 500 円→250 円
書籍「生きていたい」(小学館)より 10 点の絵。放射線汚染のため強制移住させられた子ども、甲状腺がんの手術を受けた子どもなど。
2. 「チェルノブイリのコウノドリ」 1 セット(5 枚入り) 500 円→半額 250 円 撮影: 広河隆一
3. 「チェルノブイリ被災地に暮らす人々」 1 セット(12 枚入り: 4 枚×3 セット) 200 円 撮影: 広河隆一

書籍

絵や写真を通してチェルノブイリについてわかりやすく紹介しています。チェルノブイリ事故を知らない世代にもぜひ読んでいただきたい本です。



1. 「生きていたい」 チェルノブイリ子ども基金編(小学館) 1,600 円 チェルノブイリ事故当時、被害にあった子どもたちが描いた絵と詩。ふりがながふってありますので、小学校低学年のお子さんにもお読みいただけます。
2. 「二一ナ先生と子どもたち」 広河隆一著・写真(小学館) <日本語版> 1,300 円 チェルノブイリ事故により放射線汚染地域となった学校の二一ナ先生、病気の子どもたち、自然界の異変、人が住めなくなった村など、被災地の様子を写真を通して伝えています。
3. 「二一ナ先生と子どもたち」 広河隆一著・写真(小学館) + 同書「英語・ロシア語版」(チェルノブイリ子ども基金発行・モノクロ簡易版) セット 1,600 円 ※セット販売のみ
4. 「ナターシャ チェルノブイリの歌姫」 手島悠著・広河隆一写真(岩崎書店) 1,300 円 チェルノブイリ事故で被爆し、現在日本で音楽活動をしているナターシャ・グジーを紹介しています。ふりがながふってありますので、小学校低学年のお子さんにもお読みいただけます。

ご注文方法: ①住所 ②電話番号 ③氏名 ④希望品名と数量を明記の上、

FAX・TEL・メールでお申し込みください。

●送料: 実費負担となります。

●お支払い方法: 振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。小額の場合には切手でのお支払いも可能です(封筒に金額分の切手を入れてお送りください)。

カレンダー

2009 年救援カレンダー 残部僅か。特価にて販売中。

***** 募金・救援状況 *****

募金状況 2008年12月～2009年2月

	12月	1月	2月
郵便振替	388件	215件	61件
現金	11件	15件	6件
救援寄付金	4,100,096	1,737,950	635,956
保養費	229,250	73,500	36,500
特別保養費	458,500	77,000	70,000
里子支援	59,050	1,978,530	244,650
医療機器支援	1,000	0	0
22周年救援 キャンペーン	11,000	10,000	0
合計(円)	4,858,896	3,876,980	987,106

☆他に現物寄付(切手,商品券)20,716円分

♥ 募金団体名一覧 ♥

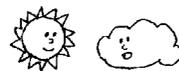
紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

【12月】富士ゼロックス(株)／富士ゼロックス端数倶楽部／リサイクルグループ カーリーナ／One Voice AIZU 実行委員会／石播労働者合唱団20周年記念コンサート／恵泉女学園 中学・高等学校／川西友の会／川和保育園／アースディ@はまでらこうえん実行委員会／日本キリスト教会大阪北教会婦人会／千葉友の会／中振キリストの教会／友愛富士見町保育園／不二聖心女子学院／自治労日野市職員組合／大和カルバリーチャペル／東用堂治療院／日本キリスト教会 浦和教会 日曜学校／日本キリスト教会 南浦和教会／覚正寺／アロカ(株)／食生活改善普及会／山口歯科医院／自治労横浜総務支部／(株)佐藤しのぶアートガーデン／タカオインテリア(株)／(学)千歳栄光学園 千歳第2幼稚園／自治労横浜環境創造支部

【1月】カテリーナの会／石播労働者合唱団／松山古町教会 C.S.／日本キリスト教協議会／龍善寺／ケイ歯科クリニック／木村眼科クリニック／(宗)日本キリスト教団鴻巣教会付属 英和幼稚園／三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金／チェルノブイリ子ども基金 奥羽／イエスキリスト教会 祈りの家／日本基督教団 田名部教会／広河隆一写真展事務局

【2月】日本基督教団 代々木上原教会／チェルボナ・カーリーナの会／日本キリスト教団 須坂教会小羊会／リサイクルグループ カーリーナ／東京平和運動センター／大阪 YWCA 千里／(株)音楽センター／川和保育園 父母の会



救援状況 2008年12月～2009年2月 (単位:円)

< ウクライナ >

子どもたちの生存

・里子支援 10人('09.1～6月分) 321,870

内分泌研究所

・医薬品('09.1～12月分) 919,300

< ベラルーシ >

希望21

・教材費支援(日本キリスト教協議会よりの募金) 900,000

・保養費 2,549,118

困難の中の子どもたちへ希望を

・医薬品('09.1～12月分) 983,919

・運営費(事務所費'09.1～12月分) 448,794

・里子支援 58人('09.1～6月分) 1,856,117

・子どもたちへ新年祝い 107,290

チェルノブイリのサイン

・医薬品('09.1～6月分) 871,317

・運営費(事務所費・スタッフ給料'09.1～6月分) 427,572

・里子支援 14人('09.1～6月分) 385,202



郵便局の振込手数料が金額によって大きくことなっています。ある里親のかたの振込方法から教わりましたが、3万円以上の場合2回に分けて振込むと、手間は増えるものの1度で振込むよりも手数料は安くすむようです。

取扱内容	払込み金額	
	3万円未満	3万円以上
通常払込み	窓口	120円
	ATM	80円
		330円
		290円

【お詫び】前号で08年支援報告と09年支援予定を掲載しました。その際、里子・奨学生・緊急支援の項目を落としてしまいました。申し訳ありません。今号の9,10ページを参照してください。

第4期理事会 2009年4月～2011年3月

理事長/鈴木裕

副理事長/小寺隆幸、向井雪子

理事/大戸清市、佐々木真理、

齋藤武光、中務俊之

顧問/広河隆一 監事/鈴木由利子

監事の黒部さんは3月を持って退任されました。長い間ありがとうございました。

また、理事の大戸さんは新任です。1996年・4月イベントの際、ボランティアとして参加されて以来のつきあいです。

全国のご支援のみなさま、引き続きご支援くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

事務局から

■◇■ニュース発送“ボランティア募集”■◇■
6/27(土)1時~5時 場所:東京ボランティア・
市民活動センター(通称ばらせん:飯田橋駅ビル
セントラルプラザ10階) 発送作業を手伝っていた
だけの方を募集しています。少しの時間でも歓迎で
す。参加される方は事前にメール、FAX、電話でご
連絡下さい。T/F 03-5228-2680

■ボランティア作業日について
毎月第1・3土曜日の1時半~5時半 ボランティア
の方と作業を行っています。作業日を変更する場合
もございますので、参加される方は前日までにご連
絡ください。事務局への電話は平日午前10時~午
後5時半の間に、留守の場合は伝言をお願いします。

■ニュースについて
募金をくださった方には、その使われ方の報告とし
て原則1年間お送りしています。また、ニュース購
読費(2000円/年)も募っております。印刷・発
送は実費の経費でまかなっておりますので、切手代
とあわせても購読費以下で間に合います。残金は募
金として活用させていただいております。

■振替用紙について
振替用紙を事務作業の都合などにより、一律に同封
させていただいております。決して募金を強要する
ものではありません。

ニュースをご購読の方で転居される場合には、新
住所の変更をお知らせください。その際には、旧住
所もあわせてお書きください。

❖2009年カレンダー
子ども基金のカレンダーをプレゼント用に購入して
くださる方もいらっしゃいます。ある募金者の方が
プレゼントした恩師からの感想を送ってくださいま
した。

「...今年も、チェルノブイリ23周年カレンダーを
ありがとうございます。

大変すばらしいカレンダーです。

9年度の方は、石川逸子さんの「詩」がなくなっ
ているのが、残念ですね。それでも「チェルノブイ
リをくりかえさないために」というタイトルのカレ

ンダーがこうやって創られていることからいろいろ
考えさせられます。

カレンダーの中に現実の社会問題を繰り返し、考
えさせてくれる、人間が生きていく事、人間が住む
自然環境に、どのような問題があるかを投げかけな
がら創られているカレンダー。写真を見ながら、い
ろいろ考えさせられる、堂々としたカレンダーだ
と思います。

しかし、高濃度の汚染地でも、そこで暮らさなけ
ればならない人が居る、そこで暮らす人には補助金
を出す、なかなか難しい問題ですね...

❖茨城県 Mさんより
「事故の前年1985年12月に生まれた長男も23歳で
す。わが子の成長を感謝するたびにチェルノブイリ
の23年という時の流れを思います。くりかえさな
いために、忘れないために、ささやかですが出来る
事を続けていきたいと思っています」

❖“神楽坂事務局だより”ブログ
チェルノブイリ子ども基金のHP「最新情報」より
ご覧になれます。*最新情報は随時更新中です。

❖編集後記
すっかり枯れきってしまっているとしか思えないク
レマチスだが、春になるといつもどこからか新芽を
のぞかせて、ホッとさせる。暗い話が多いここ数か
月だが、新しい希望の芽はきっと育っているに違
いない、と思う。(み)

今年もまた4月がきます。23周年の救援イベントは、
広河隆一最新チェルノブイリ報告会です。3月に取
材された、まさに「最新」の報告をどなた様もお聞
き逃しなく!(せ)

文字が小さい、という読者の方からの声。今回の
“ニュース”もまた内容もりだくさんで、小さな文
字のところ多し。次号こそ.....(む)



発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴村稔 発行日 2009年3月21日(年4回発行)
〒162-0816 東京都新宿区白銀町25メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316
ウェブサイト=http://www.smn.co.jp/chno/index.html e-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp